

分離プランについて

NTTドコモ	○ 現行の販売モデルについて、負担の透明性・公平性確保の観点から、何らかの手当が必要。 ○ 具体的な実現方法は分離プラン以外にもある（端末販売奨励金の廃止や割賦販売）。 ○ 本格導入には各方面に与える影響が大きいのので激変緩和措置が必要。
KDDI	○ 端末価格や通信料金の透明性を高め、利用者に分かりやすく多様な選択を用意することは適切。 ○ 販売奨励金の見直しにあたっては、端末買換え需要を必要以上に冷え込ませないように配慮することも重要。
ソフトバンク モバイル	○ 多様なニーズに応えるためには、事業者の自主性に基づく取組を基本とすべき。 ○ 国が特定の販売モデルに誘導することは望ましくない。
ウィルコム	○ 分離モデルとして、割賦販売を既に実施しているところ。 ○ 当社において従来から進めている取組と方向性を同じくしており、基本的に賛同。
イー・モバイル	○ 分離プラン等を導入する方向性について賛成。

第9回会合(07/08/29)におけるヒアリングの概要(2/4)

会計制度の見直し

NTTドコモ	○ 会計制度の見直しについては、過去に遡って分離を行うことは妥当ではないため、端末販売奨励金は従来どおり電気通信事業費用に計上。注記により透明性は確保可能。 ○ 端末販売奨励金を接続料原価から控除することについては否定しない。
ソフトバンク モバイル	○ 会計の透明化には賛成だが、特定の方向にビジネスモデルを誘導することは望ましくない。
イー・モバイル	○ 端末販売奨励金を会計上で明確にし、接続料金に含めないとすることに賛成。

SIMロック解除について

NTTドコモ	○ SIMロック解除により利用可能となるサービスは、現状では限定的であり、当面動向を注視すべき。
KDDI	○ SIMロック解除は、利用期間付契約の導入等により端末コストの確実な回収が図られることから、対応可能。
ソフトバンク モバイル	○ 事業者の自主性に基づく取組を基本とすべき。 ○ SIMロック解除によって、通信方式の異なるKDDIのみが顧客流出からプロテクトされることとなるのは不公平。
イー・モバイル	○ SIMロックの解除については、可能な限り早期に行うことが必要。 ○ 公正競争上、全事業者に同期をとって実施させることを担保することが重要。 ○ SIMロック解除の法制化を行うことは適切。

第9回会合(07/08/29)におけるヒアリングの概要(3/4)

MVNOの新規参入促進／卸標準プランの策定・公表について

NTTドコモ	○ MVNOへの新規参入促進を通じたモバイルサービスの多様化は歓迎。 ○ MVNOにのみネットワークの使い放題を認めることは、他の利用者との公平性の観点から困難。 ○ 卸標準プランの策定については、一律な策定は困難であり、事例の蓄積が図られた段階で検討すべき。
KDDI	○ MVNOの市場参加は好ましい。 ○ MNOの設備は「ボトルネック設備」ではなく、MNOがリスクを負って投資・構築したものであることに留意必要 ○ MVNOにもモバイルビジネスの施策の実現については、事業者としての責務を共有すべき。 ○ MNOのネットワークや設備の利活用に当たっての条件は、基本的にはビジネスベースでの交渉に委ねるべき
ソフトバンク モバイル	○ MVNOは、新規市場開拓に有効なソリューション。 ○ MVNO事業者にとって、ある種のルールがある方が参入しやすいことは理解できるが、支配的事業者以外は相対契約を基本とすべきで、チャレンジャーには卸標準プラン策定を義務付けるべきでない。
ウィルコム	○ 更なる交渉の円滑化のためMVNO事業化ガイドラインの更なる明確化に賛同。 ○ 当社では、既に自ら策定した「無線IP接続サービス卸契約約款」に基づいてMVNOへサービスを提供。
イー・モバイル	○ 現状、卸売料金等の条件は相対取引で決めており不透明。 ○ 支配的事業者には、MVNOへの提供条件のオープン化を義務化すべきであり、卸売料金の低廉化が必要。

第9回会合(07/08/29)におけるヒアリングの概要(4/4)

プラットフォーム機能の連携強化

NTTドコモ	○ プラットフォームは競争の源泉であり、その在り方は競争に任せるべき。 ○ iモードはオープン化しているし、技術開示もしている。
KDDI	○ EZウェブとしてオープン化する仕組みはあるが、プラットフォームごとに機能やインターフェースが異なるので、プラットフォーム機能の統一的なオープン化は困難。
ソフトバンク モバイル	○ 支配的事業者以外への過度な規制は不適切。 ○ コンテンツメーカー等へは十分にオープン化しているし、課金代行もしている。 ○ 複数の会社で基本的なプラットフォームまで統一するのは困難。 ○ 番号ポータビリティにおいて、eメールアドレスの持ち運びができるようにすることが先決。
ウィルコム	○ プラットフォームの共通化は、市場の活性化、健全な競争環境の整備に繋がることから賛同。 ○ 当社端末からiモードメールを確認できるようになれば顧客利便が向上する。
イー・モバイル	○ 水平分業モデルを促進し、例えばドコモユーザーがキャリアを変えた後もiモードを利用できるよう、プラットフォーム機能の分離も行うべき。 ○ 固定系では水平分業化が進み、プラットフォームの分離・連携が実現できているが、移動系のプラットフォームは支配的事業者の支配の源泉になっている。